

2024 年 11 月 22 日

日本は、ジェンダーに基づく暴力（GBV）被害者を支援する草の根プロジェクトに資金供与

日本政府は、ジェンダーに基づく暴力（GBV）被害者を支援するため、日本の中古救急車 2 台を寄贈する新たなプロジェクトに 50,670 米ドル相当の資金を提供することを決定しました。令和 6 年 11 月 22 日、山中伸一駐ジンバブエ大使とアダルト・レイプ・クリニックのマセリーヌ・ムクワンバ代表との間で正式な贈与契約が結ばれました。

ジンバブエで GBV 被害者の支援を行うアダルト・レイプ・クリニックは、これら 2 台の救急車の提供により、チトウングザ、マゾエ、ドンボシャワ、ゴクウェ、カドマ、ムタレ及びマシングの 7 郡で GBV 被害への訪問診療サービスを提供する予定です。

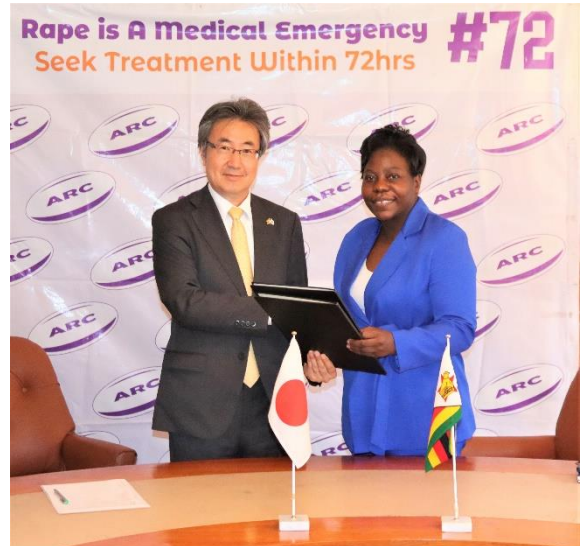
ジンバブエでは昨年、1 万件以上の GBV 事件が警察に報告されており、HIV や性感染症の高い罹患率にも影響しています。これら救急車は、経済的理由で医療措置等へのアクセスが困難な GBV 被害者に、遠隔地訪問によって医療・心理的サポートを提供するために不可欠なものです。

訪問診療を通じ、十分な診療サービスを受けることができない地域で、年間約 5,000 人の女性が、HIV と性感染症の診察う及び心理的サポートを受けることが可能となります。日本の四輪駆動の救急車は、未舗装道路で通行が困難な地域や、安全でプライベートな空間での治療が必要な地域での訪問診療に特に適したものです。

山中大使は挨拶の中で、このプロジェクトの重要性を強調するとともに、訪問診療を受ける GBV 被害者に大きな影響を与えるものとなるよう期待すると述べました。さらに、地域社会に利益をもたらすよう責任を持って救急車を利用することを通じ、ジンバブエにおけるより包括的な男女平等社会を構築することが重要であると強調しました。

日本の草の根・人間の安全保障無償資金協力は、1989 年にジンバブエで開始されて以来、教育、保健医療、ジェンダー平等、食糧安全保障、水衛生などの分野の 156 プロジェクトに 1600 万米ドル以上の資金提供を行い、人間の基本的ニーズ（BHN）の課題解決に取り組んでいます。

(参考) 署名式の状況



本使とムクワンガ ARC 代表による贈与契約への署名



集合写真 (ARC 代表、パリレニャトワ病院及び本使ほか当館関係者)